

農業振興部公共事業等評価シート

NO	野市-1
市町村名	香南市

事業名	地域ため池総合整備事業	地区名	野市
事業期間	平成25年度～29年度	事業主体	高知県
総事業費	380,000千円	負担割合	(国)50% (県)40% (香南市)10%

◇ 事業概要（目的及び内容の説明）

① 対象者（受益者）

【黒谷池】

洪水被害面積 A=38.1ha 農業用施設 1,524m（農道 190m・水路 1,334m）
 住居 3戸、県道 260m、
 土佐香美野市ライセンター 7,411m²

② 目的

黒谷池は、地域の主水源となっており、野市町本村土地改良区が管理しているが、築造後81年が経過し、堤体下流部への漏水や堤体の浸食、また洪水吐の老朽化等により危険な状態となっている。このため、本事業によりため池の抜本的な整備（改修）を行い、台風や集中豪雨等によるため池決壊等の災害を未然に防止する。

整備手法

工種	事業量	事業内容	事業費【千円】
ため池改修	1箇所	黒谷池：貯水量42,800m ³ 堤高9.9m 堤長90.0m 洪水吐（B=15.5m×H=1.50m） 底樋管φ1,000mm（L=48.93m） 斜樋管φ300mm 1ヶ所 緊急放流孔 1ヶ所	
その他	2箇所	黒谷池：安全施設（転落防護柵 L=110m） 松葉谷池：安全施設（転落防護柵 L=100m）	
計			380,000

1 対象者とそのニーズの説明

① 事業の対象者（地域あるいは受益者）が、現状でどのような問題や課題を持ち、それをどんな状態に改善する必要があるのか

ため池下流の集落では、自主防災組織がH21年度に設立されており、避難訓練を実施するなど住民の防災意識は高い地域である。

自主防災組織では、老朽化した黒谷池の決壊のリスクが高まったことについて危機感を持っており、早急な対策を望んでいる。このため、堤体の改修工事を実施して農村生活の安全・安心を確保する。

② その問題を生じている原因は何か、課題を解決するために必要な条件は何か

【原因】

- ・黒谷池の老朽化（築造後81年経過）による漏水・浸食・底樋等の破損及び洪水吐の断面不足等

【解決策】

- ・黒谷池の改修

① 題解決をしなかった場合、どのような影響があるのか

【下流への影響】

- ・下流域の被害想定額は419,064千円である。

被害想定

住居	農地	農業用施設	主要施設	
	田・畑	水路・農道等	県道	JA施設
3戸	28.6ha	1,524m	260m	7,411m ²

【農業への影響】

- ・本地区の営農は、ため池からの用水供給に依存しており、被災した場合は受益地へのかんがい用水の供給が不可能となる。

2 整備手法の選択理由

① ニーズや課題解決に対し、これまで、どのような対策を講じてきたか。

- ・黒谷池は、野市町本村土地改良区が管理しており、草刈りや軽微な修繕等の維持管理を定期的実施しているが、老朽化が進行し軽微な修繕等では対応できない状況となっている。

② この事業の整備手法が、ニーズにどのように適合しているか（原因や必要条件との関連性）

- ・ため池を改修することで、豪雨や南海地震等の自然災害からため池の決壊のリスクを低減し、下流人家、公共施設及び農地・農業用施設の保全を図る。

③ 他に考えられる整備手法より、この手法が優れていると考えている理由（複数の選択肢との比較検討。なお、比較検討の際にはランニングコストも含むこと）

検討項目	当該整備手法	他の整備手法
用水の確保	既存ため池を改修することより、安定した用水量の確保とともに決壊リスクを低減して下流域の保全を図る。	既存ため池を廃止し用水量確保のため、地区内に集水井戸を設け揚水する方法である。当地区では数箇所の井戸が必要となることや他の地下水取水施設への影響のリスクが大きい。
判定	○	×

3 事業の全体コストの把握

① 投資額（ランニングコストを含む）に対する費用対効果

	総費用	総便益額	総費用総便益比
黒谷池 松葉谷池	324,026	371,610	1.14

$$\begin{array}{l} \text{総便益額 (B)} \quad \text{総費用 (C)} \quad \text{投資効率 (B/C)} \\ 371,610 \text{千円} \div 324,026 \text{千円} = 1.14 \end{array}$$

②事業主体の負担額及び対象者（受益者）の負担額の妥当性

	負担率 (%)	負担金額 (千円)
国	50	190,000
県	40	152,000
市	10	38,000
合計	100	380,000

※受益者負担なし

- ・ 計画的な財政負担が可能か
香南市の負担については、必要な投資として了解を得ている。

4 目標水準（地域構想あるいは営農計画等）の設定 [完了後おおむね5年以内での目標を想定]

目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 両ため池を主水源として、水稻及び施設栽培の「トルコキョウ」や「ナス」が作付され、受益地内にはJAライスセンターが併設されるなど、今後も農業のさらなる発展が期待できる。 ・ また、台風や局所的な集中豪雨によるため池決壊リスクを低減することによって、安全・安心な農村環境が保たれる。
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の主水源であるため池の老朽化が進行し、決壊リスクが高まっている。

5 その他（事業を推進するために必要な法令上の許認可手続き（地元の同意状況を含む）や課題等）

地元の同意は十分にとれる見込みである。